

氏名 小山 有美華  
学校名 仙台育英学園高等学校 (秀光コース)

おやま 小山 有美華

題名 「公」の重み

学年 一年M二組

作品番号 290  
※税務署整理欄

「税に関する高校生の作文」原稿用紙

日本の税負担は大きいのか。妥当なのか。昨今、税金の使われ方が問題となっている。また、税金だからと言って、身勝手な行動をとる人もいる。

私は、「公」の文字に重みを感じる。それは、国民が一生懸命働いて得たお金を税金として納めているからだ。物を買う時には消費税がかかる。消費税は、私たち学生にとって身近な税負担である。物を買うという行動には、物を選ぶことから始まり購入に至るまで、本人の意思決定が必要となる。そして、そこには責任が生じる。大げさかもしれないが、私たちは購入する際に、「納税します」と意志決定しているのである。そのように考えると、私たちは、生活する上で多くの税金に支えられていることを改めて認識することができ。例えば、ごみを処理する上でもごみ処理費用がかかる。一般財団法人国づくり人づくり財団によると、レジ袋の年間ごみ処理経費は、百三十六億円だ。驚くべき数

氏名  
学校名

氏名	
学校名	
題名	
学年	

作品番号  
※税務署整理欄

「税に関する高校生の作文」原稿用紙

字である。レジ袋をもとにごみ処理経費のこ  
とを考えていくと、環境問題にも発展する。  
地球温暖化防止に、レジ袋削減への取り組み  
が必要であることは言うまでもない。マイバ  
ッグなどを持参し、レジ袋や割り箸などを断  
るなど様々な環境問題に取り組んでいる人も  
多いだろう。税金のことを考えることで環境  
保全にもつながるのでないかと私は考える。  
更に、文教及び科学振興費についても考える。  
公立の学校の児童生徒には教育費が負担され  
ている。また、経済的理由により就学が困難  
な学生のための育英事業費というものもある。  
私たちが学生は、当たり前前の教育環境だと認識  
しがちだが、税金のことから教育を考えると、  
あらゆる物を大切に使わなければならないこ  
とに気付かされる。私たちが学生は、一生懸命  
勉強などに励み、社会の一員としてできるこ  
とから実行することが大切なのだ。  
そして、社会全体で考えるべき問題がある。  
それは、私たちの安心・安全に使われている

氏名  
学校名

題名

学年

作品番号  
※税務署整理欄

「税に関する高校生の作文」原稿用紙

警察・消防費である。「公」であるといふこ  
とを自分のモノと勘違いして、救急車を送迎  
代わりにのように利用しようとする人がいる。  
また、自分勝手な行動をとり、本当に必要な  
人を救うべき時間が奪われかねないことをす  
る人がいる。まるで、税金の本当の意味が分  
かっていないかのような行動である。  
「公」の重みは、税金のあり方を考えさ  
せられる。税金によつて、安心・安全に私た  
ちの生活は支えられている。国は、国民の税  
金を正しく使い、国民が最低限度の生活を送  
れるように保障する必要がある。そして、私  
も、納税の義務をし、かり果たせる大人にな  
りたいと思う。